

岐阜大学の活力(いぶぎ)を地域から世界へ発信する広報誌

岐大の いぶぎ

2011-2012
Autumn-Winter No. 22

【特集1】

つながりって なんだろう？

—— 人とまちをつなぐ

「知」でつながる。はじめる。

岐阜大学地域科学部地域政策学科 教授
富樫 幸一

人と大学と地域が、つながる。

「知」が循環する社会へ。

岐阜大学工学部社会基盤工学科 教授
高木 朗義

岐阜大学総合情報メディアセンター/
生涯学習システム開発研究部門 准教授
益川 浩一

【特集2】

「学び」の チカラ。

理事(教学・附属学校担当)・副学長
岡野 幸雄
教養教育推進センター長
福士 秀人

published by



岐阜大学



めざすは日本一。
そして、その先の世界へ。
岐阜から、女子相撲の頂点をめざす。

岐阜大学地域科学部 2年 平田 百 さん



近畿大学附属東広島高校出身。身長169cm。中量級。「岐阜木曜クラブ」で木曜と土曜の週2回、約2時間の稽古に励んでいます。ぶつかり稽古の間には、丁寧に念入りにシコを踏む。「カラダを部分的に鍛えたいときは大学のジムに行きます。無料なのがうれしいですね」。

平田さんが相撲を始めたのは高校1年生。彼女の高い身体能力に惚れ込んだ顧問の先生にスカウトされたのがキッカケでした。「最初は見学だけのつもりが、体験してみたら“ビビッ”と感ずるものがあった。理屈じゃなく、とにかくすごく楽しかったんです」と相撲に一目惚れした平田さん。「真正面から激しくぶつかり合う立ち合いの緊張感。ルールは単純でも奥が深い。技と経験があれば自分より大柄な人を倒せる醍醐味。とにかく魅力的で、あっという間に夢中になりました」。

しかしなぜ、相撲部のない岐阜大学を選んだのでしょうか。「高校1年の冬に岐阜で合宿をしたことがあり、その時

の稽古場が『岐阜木曜クラブ』でした。そこで柴田先生や先輩たちのパワフルさに惹かれ、またこの道場で練習したいと強く思ったのです。合宿最終日に登った金華山は、今もお気に入りの場所。「最近、トレーニングと減量を兼ねて金華山に登っています。自転車で麓まで行って、馬の背コースを歩きます。71歳のベテラン登山家のお友達もできました(笑)。足腰を鍛えるにはぴったりなのだとか。「何よりも自然に囲まれながらトレーニングできるのが最高です。山があって空気が綺麗な岐阜は、生まれ育った西条に似ていてホッとします」。

岐阜に来て2年目。これまでの主な成績は、全国大会3位、西日本大会3

位、県大会優勝と、素晴らしい結果を残しています。しかし平田さんは「運が良かっただけ。まだまだ、全然ダメです」と謙虚かつ冷静。「目標は、日本一になって世界大会へ出場することです」と高校時代から変わらぬ夢を力強く語ります。「上達するためには、稽古してコツを肌で感じるしかありません。反復練習あるのみです。もっともっと強くなりたい。今はこれしか考えられません」。相撲へのひたむきな情熱と決して諦めない粘り強さを秘めて邁進する平田さん。ここ岐阜から、女子相撲界の頂点をめざします。

平成23年度
入学式を行いました

平成23年4月7日(土)

長良川国際会議場にて平成23年度入学式を行い、学部学生1,363人、大学院学生591人が入学しました。森学長は「真摯に勉学に励み、国際社会や地球環境改善に関する議論に積極的に加わってほしい」と新入生を激励。学生代表は「震災で未曾有の危機のなか、入学の春を迎えることに感謝している。日本の復興を担う力を育みたい」と宣誓しました。また、8日(金)には大学院連合農学研究科、同連合獣医学研究科の入学式があり、46人の大学院学生が入学しました。



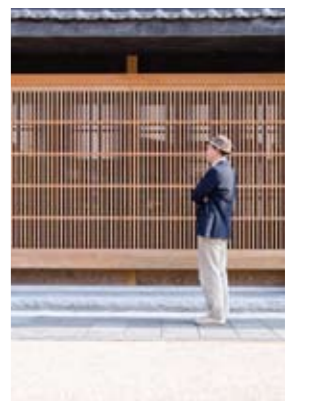
コンビニに
広報プラザを開設!

平成23年4月

大学本部前にある福利厚生施設(コンビニ)内に、新しく広報プラザが開設されました。イトインコーナーに掲示板(インフォメーションボード)とパンフレットラックを設置。各学部・センターの概要や教育研究の内容を紹介し、本学の広報プラザとして情報発信を行っていきます。あわせて、コンビニ南側には石貼りテラス、北側にはウッドデッキテラスも増設されました。ぜひ、お立ち寄りください。



部屋(4階)からキャンパスを眺めると、赤や黄色に色づいた木々のまわりを学生たちが歩いています。木々が季節によってその姿を変えるように、学生たちも学びによって成長していきます。大学において一人の人間を真に教育するということは、たとえば一本、一本、木を植えるようなものです。たとえ植えた先生自身がなくなっても、もしその木が真に根付いたならば、木はどこまでもその成長を止めないでしょう。教育において、先生は学生の魂に火を付け、その全人格を導くことが重要です。一方、生徒は先生に対して全力でやり、先生のすべてを吸収しなければなりません。教育とは、そんな真剣な「つながり」で成り立っています。(編集長)



PLACE 川原町
MODEL 岐阜大学地域科学部地域政策学科 富樫 幸一 教授

03-05 Topics 岐阜大学のとりくみ Apr.2011→Oct.2011

【特集1】
06-11 つながりってなんだろう?
—人とまちをつなぐ

Interview 「知」でつながる。はじめる。
岐阜大学地域科学部地域政策学科 教授
富樫 幸一

Interview 人と大学と地域が、つながる。
「知」が循環する社会へ。
岐阜大学工学部社会基盤工学科 教授
高木 朗義
岐阜大学総合情報メディアセンター
生涯学習システム開発研究部門 准教授
益川 浩一

まちづくりを牽引する現役岐阜大学生と卒業生。

【特集2】
12-17 「学び」のチカラ。

Interview 理事(教学・附属学校担当)・副学長
岡野 幸雄
教養教育推進センター長
福士 秀人
岐大発。「学び」とは〇〇である。

18 岐阜大学基金の状況報告

19 お知らせ

巻末 入試情報

環境プロジェクト

「緑のカーテン ゴーヤーで夏を涼しく」

学生サークルの緑化研究会「three trees」が環境プロジェクトの一環として、大学本部棟の西側壁面にゴーヤーで緑のカーテンをつくりました。同研究会は岐阜県が企画する『平成23年度「緑のカーテンで夏を涼しく過ごそう!』の参加団体に選ばれ、5月17日(火)に県から配付されたゴーヤーの苗40株を植えました。夏の強い日差しを和らげ、自然の力で涼しく過ごす省エネ効果が期待される自然のカーテン。西日が差しこむ大学本部の部

屋も、青々と茂ったゴーヤーの葉が窓を覆い、日陰を作ってくれました。

8月9日(火)には、大切に育てたゴーヤーを収穫。サークルの森本恒さん(工学部2年)は、「順調に成長し、こんなに収穫できて大成功です。自分たちが作ったと思うと可愛いですね」と笑顔で話しました。また、今後のサークルの活動として「学生目線の大学環境づくりに励み、エコ検定やISOの勉強をしてキャンパスをより良い環境にしていきたい」と抱負を語りました。



オープンキャンパス2011

平成23年8月9日(火)～11日(木)

8月9日(火)から11日(木)に開催されたオープンキャンパス。3日間で昨年を上回る5,486人(前年は5,066人)の高校生やその保護者が大学を訪れました。各学部では、学科(課程)の紹介、模擬講義、体験実習、施設見学などを実施し、学部の特徴を紹介しました。また、オレンジ色のTシャツを着た在学生が、キャンパスを案内する岐大ツアーやトークコーナーなども実施。在学生ならではの企画で、岐阜大学の魅力を伝えました。猛暑にも関わらずたくさんの方々にご参加いただき、ありがとうございました。



祝! 国体出場 ～なぎなた～

地域科学部3年生の大橋あゆみさんが、10月に開催された「おいでませ! 山口国体」の岐阜県代表選手として出場しました。なぎなた競技には、「試合」と「演技」の2種類があり、大橋さんは「試合」に出場しました。「試合」は防具をつけ、定められた部位(面部、小手部、胸部、脛部、咽喉部)を確実に早く打突して勝負を競います。

結果は、沖縄県代表に惜しくも敗れましたが、岐阜県代表として素晴らし

い活躍をしてくれました。大橋さんは「今回は残念な結果でしたが、ぎふ清流国体をめざして練習に励み、もう一度挑戦したいと思います。」と抱負を語っていました。来年度のぎふ清流国体での活躍に期待したいです。がんばれ大橋さん!



第1回 リアル熟議

「よりよい就職のために」

平成23年6月17日(金)

就職・キャリア形成における課題を見つけ、その解決策を作り出すことを目的に、鈴木寛文部科学副大臣(当時)を招いて、第1回リアル熟議「よりよい就職のために」を開催しました。キャリアセンターのサポートのもと、「岐大発! 熟議推進委員会」の学生が主催・企画・運営。学生、企業、自治体関係者及び大学教職員など118人が参加しました。

内定を取ることを目的とせず、人生設計やキャリア設計を見据えた上で職業や企業を選択するよりよい就職について、熱心で活気ある議論を展開。鈴木副大臣

(当時)による講評では、「熟議は答えを聞きだすものではなく、自分たちで見いだすこと。ここで得た発見を五感で理解し、次の行動へとつなげてほしい」と激励。参加者全員が共通のテーマに対して、根底にある問題や解決策、新たな取り組みに向けての認識を一つにするなど、有意義な一日となりました。キャリアセンターでは、学生のキャリア形成に繋がる自主的な活動を、今後も支援していきます。



東北地方太平洋沖地震

現地調査緊急報告会を開催

平成23年4月5日(火)

東北地方太平洋沖地震の発生を受け発生が予想される大規模海溝型地震において、中山間地を広く抱える岐阜県の対応に焦点を絞った緊急現地調査を実施。その報告会に教職員・学生、行政関係者ら約150名が参加しました。地震工学を専門とする杉戸理事からは、東海・東南海・南海地震の想定断層モデルと比較した解析結果の報告が、森口工学部助教からは、液状化や土砂崩壊による家屋や道路への被害報告がありました。質疑応答も活発に行われ、予想される大規模地震への備えをする契機となりました。

創立62周年の記念日をお祝い

平成23年6月1日(水)

岐阜大学の創立62周年を記念して、講堂にて記念日行事を開催。教職員ら約270名が出席し、記念日を祝いました。森学長が「岐阜大学の現状と報告」と題し、教育、研究、国際化及び社会貢献について、新たな取り組みの報告と今後の方向性を述べ、第2期中期目標を踏まえた「岐阜大学のビジョン」達成に向けての決意を示しました。また、記念講演や管弦楽団による演奏、コーラスクラブの合唱も行われました。



第29回・第30回 岐阜大学フォーラムを開催しました

平成23年4月27日(水)・6月1日(水)

岐阜大学では、優れた学問を発展させてきた一流の研究者による講演会を定期的に開催しています。4月27日(水)には本学の卒業生である京都大学iPS細胞研究所の山田泰広教授による「再生医療実現に向けたiPS細胞研究」の講演が、6月1日(水)にはNPO法人防災情報機構会長で元NHK解説委員の伊藤和明氏による「地震列島の宿命」と題した講演がありました。参加した学生や若手研究者は熱心に話に聞き入っていました。多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。

第22回 岐阜シンポジウム

「いま ぎふ ができること」

平成23年7月15日(金)

環境、バイオ、情報、教育などの21世紀の重要テーマについて、研究成果を社会に発信する「岐阜シンポジウム」。7月15日(金)に第22回が開かれ、能島工学部教授と国土交通省中部地方整備局の野田徹氏がそれぞれ講演。パネルディスカッションでの呼びかけに対し、コーディネーターの杉戸理事は、超広域災害に備えて今岐阜でできることとして、「周辺自治体との連携を核とした防災拠点ネットワークの構築や地震への正しい理解と共通認識」などを進言しました。

「知」でつながる。 はじめめる。

人、モノ、知恵、文化、歴史、経済など…、さまざまなものがつながつて形成されている地域。もちろん、その「つながり」の環には大学も含まれる。その中で大学が果たすべき役割とは何だろう。

「つながり」を研究することにより
人々や社会が抱える課題をすこしずつ解決でき、
明るい未来を切り開くことができるのではないだろうか。
「知」でつながることにより生まれる、希望。



岐阜大学地域科学部
地域政策学科教授
富樫 幸一

人と人の「つながり」を資本として地域が活性化し、
そこで育った人材が
別の地域でまた新たな「つながり」を生み出していく。
そして、
それは受け継がれ世界へ、未来へとつながっていく。
つぎることのない「つながり」の中で「つながり」を学ぶ。
学生たちは、果たして何を学べるのだろうか。
地域は、どう変わっていくのだろうか。
新しく何が生まれるのだろうか。
「つながり」に秘められた可能性は、無限に広がっている。

つながりは、無限。

つながりってなんだろう？

—— 人とまちをつなぐ

岐阜のまちづくりプロジェクトは、産官学の「つながり」から生まれた。1996年に地域科学部が開設され、2001年には岐阜県・岐阜市・十六銀行・岐阜大学などによる産官学連携から『ぎふまちづくりセンター』が誕生しました。「つながり」から始まった岐阜のまちづくりプロジェクト。今では「まちづくり」という言葉もすっかり浸透し、蒔いた種がさまざまな形で実を結びはじめています。

地域との「つながり」を見つめ直すことが、まちづくり研究の第一歩。

大学でまちづくりを研究する。実はこの第一歩は、地域と学生との「つながり」を再び見つめ直すことから始まります。子供会、町内会、社会科の地域学習など、小・中学までは地域と子どもは確かにつながっています。しかし、高校・大学受験を機に地元を離れ、地域との関係がいったん切れてしまう。それを再び結びなおすことから、まちづくりの研究はスタートします。自然、歴史、経済、文化。岐阜には取っ掛かりやすい研究テーマがたくさんあり、規模も

ほどよい。研究フィールドとして、とても魅力的な地域です。

大学は、人とモノと地域を結ぶ担い手であり、「つながり」の拠点でもある。

道を整備し建物を立てるには億単位の費用が必要ですが、ガイドブックなどのソフトならもう少し手軽に作る事ができます。実際に「いろんな人と話して、地域を知って、たくさんの人に魅力を伝えていこう」をコンセプトに『まちあるきマップ』などを製作してきました。そしてこれをさらに効果的なツールにするためにも、大学の「知」はとても役立ちます。たとえば中国語版を作りたくなくても大学から翻訳も担える。学部学科を越えて大学の「知」を有効に活かせる。これこそ大学の「知」の「つながり」の強みだと思います。また、この「知」をつなぐためには、人と人のつながりが大切です。岐阜大学から巣立っていった卒業生たちが、岐阜以外の地域でまちづくりと連携し、新たな「つながり」を生み出していく。そんな未来を切り開く担い手を輩出することも、大学の重要な役割だと考えています。

地域に寄り添う 大学だから できることがある。

大学を拠点にフィールドへ飛び出し、まちづくりの研究に取り組む富樫研究室。学生だからできること、岐阜だからできること、という視点から、その活動内容について具体的に伺いました。

—まちづくりを研究するうえで、岐阜ならではのメリットは？

「まちづくり」実習「研究」の3つが一体となっている岐阜は、学が「場」として最適な環境が整っていると思います。地元の方々が「地域活性化のために一緒にやろう」という気持ちを持ってくださっているので、調査や研究がとてもしやすい。ある町では「うちのまちづくりのキッカケは大学の調査だよ」と言われたこともあり、うれしかったですね。

—学生にも良い刺激になり、研究の質の向上にもつながります。

学生にも良い刺激になり、研究の質の向上にもつながります。

—商店街の活性化などに必要なものとは？

「まちづくり」実習「研究」の3つが一体となっている岐阜は、学が「場」として最適な環境が整っていると思います。地元の方々が「地域活性化のために一緒にやろう」という気持ちを持ってくださっているので、調査や研究がとてもしやすい。ある町では「うちのまちづくりのキッカケは大学の調査だよ」と言われたこともあり、うれしかったですね。

商店街のリノベーションでも大切なのは個性です。お金をだせばモノは買えるけれど、店主のユニークなキャラクターなどは、その店にしかない。足を運びたくなる個性と出会い、つきあっていくことが大切だと思います。小さくてもこだわりがあれば面

—若い学生だから気づくこととは？

若い学生だから気づくこととは？

には、若い人や女性の感性はとても重要だと思います。わかりやすい例が、おんぱくで活躍した若女将の皆さんです。また、古い町並みがあるという事は、ヨーロッパでも日本でも観光にとって絶対的な資源です。懐かしいものに触れて「ホッとする」という感覚は世界共通ですから。こうしたポイントに気づく感性を大切にしながら、人が集まる「場」、つながりが生まれる「場」がもっと街なかを増えるよう、調査・研究に取り組んでいきたいですね。



いつもお世話になっているおふたりと川原町でパジャリ。玉井屋本舗社長で川原町まちづくり会事務局長の玉井博祐さん(右)と、NPO法人ORGAN理事長で長良川おんぱく実行委員会事務局長の蒲勇介さん(左)

“おつき合い”と“学び”のステキな関係



古今金華



わたしたちの子供の頃の金華の町

まちづくり、実習、住民の皆さんとおつき合い

地域科学部ではこの10年来、古い町家や町並みが遺る金華地区(旧岐阜町)で、山崎仁朗先生(社会学)や合掌頭先生(建築環境)、富樫(地理学)などが学生と地域学実習の調査をやらせてもらってきました。並行してぎふまちづくりセンターの月1回の景観サロンのも続けており、川原町や伊奈波界隈の皆さんのまちづくりの会と一緒に、協定づくりや無電柱化事業に係わってききました。さらに若者や市民のグループ、市の職員などと一緒になって『古今金華』をつくり、金華一三三会の皆さんが町の記憶

を書きとめられた『わたしたちの子供の頃の金華の町』の編集でも協力しました。

聞き取りやマップづくりを通じて地域を見直すところから始めて、町家の保存や高齢化などの課題を調査しています。大学側では教育と調査の意図があるし、まちづくり会はその結果を使えるわけで、いい関係ができています。こうしたことを通じて分かる大事な事は、まずは住みやすい、誇りをもてる地域にすること。訪れた人のだれもが町並みの中に入ると「ホッとする」川原町は、住民の皆さんが「心を一つに」して取り組まれ、大学も少しお手伝いさせてもらってきた町なんです。

地域再発見! それが「長良川おんぱく」



長良川おんぱく

—といっても初めて聞くという人もいるでしょうが、今年の秋はネットやメディアに広まりました。岐阜市には、長良川や金華山などの素晴らしい自然がいつも目の前に横たわり、道三と信長が整備した全国的にも早い時期の城下町以来の歴史を誇ります。それなのに「観光といえば高山」「岐阜には何もないから」とよく言わ

れましたが、そうはいわせたくない。今、観光はマスツーリズムから、友達や家族とゆっくり町をめぐり歩くエコツーリズムに、世界でも日本でも換わってきていて、岐阜にとっても伝統の鶴飼以外のチャンスが訪れています。岐阜大学の学生も「古今金華町人ゼミ」で自主企画したり、参加して自分たちも楽しんだ「長良川おんぱく」は、岐阜の魅力を見直すきっかけになったはず。



岐阜大学総合情報メディアセンター
生涯学習システム開発研究部門 准教授

益川 浩一

キャリアセンター副センター長。地域連携室員。岐阜県の生涯学習社会教育政策監を兼務。岐阜県の「地域づくり型生涯学習モデル事業」に取り組んでいる。

岐阜大学工学部
社会基盤工学科 教授

高木 朗義

社会資本アセットマネジメント技術研究センター長。岐阜県都市建築・県土整備政策監。専門は、道路や河川などのインフラ（社会基盤）計画および地域計画、防災計画。

人と大学と地域が、つながる。
知が循環する社会へ。

孤立化・個別化した生活が広がり続け、顔の見えるコミュニティづくりが求められている今。岐阜大学では、地域、行政、企業、大学がひとつになって地域活性化をめざす取り組みを推進しています。研究室を飛び出し、地域と密にコミュニケーションをとりながら、まちづくりに取り組む高木教授と益川准教授に、「つながる」ことの大切さをテーマにお話を伺いました。



「大学で集約・蓄積した「知」はどのように地域に還元されていますか？」

高木 「地域のインフラは地域で守る。をコンセプトに、産官学連携でインフラの整備・管理のリカレント教育を行っています。受講者は社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)として認証。平常時の維持管理のみならず万が一の災害時の復旧でもその力は発揮されます。」

益川 岐阜県の「地域づくり型生涯学習モデル事業」では、地域の方がワークショップなどで課題を発見し、解決のために学習し、取り組みを実践しています。ここに学生が加わり、若い人ならではの新鮮な意見を届けています。見方を変えるだけでマイナスがプラスに変わるものが岐阜にはたくさんあります。大学としても、こうした学生の自主的な活動はどんな支援していきたいですね。」

GIDAI RECOMMEND
まちづくりを牽引する
現役岐阜大学生と卒業生。

メディアムスローな
ライフスタイルを
提案中。



岐阜大学地域科学部
足立 真由さん (4年生)

【主な活動】
関市のまちづくりNPOぶうめらんでボランティアスタッフとして、地域の情報を載せたフリーペーパーの編集や地域活性化のイベントの運営に携わっています。

この古い倉庫では
なにやら面白いこ
とをやっている。



やながせ倉庫管理人
上田 哲司さん (1984年卒業)

【主な活動】
柳ヶ瀬商店街のはずれにある、祖父の代からの雑居ビルを改装し、「やながせ倉庫」という商業施設を管理運営しています。近所の店主たちと、手づくり市「小さなクラフト展」を開催したり、ビルの屋上で素人養蜂をしたりして、店主たちのゆるやかな連携を模索しています。

コミュニケーション
の大切さを伝えて
います。



アナウンサー、大学講師
浅井 彰子さん (2003年修了)

【主な活動】
ラジオ、司会、朗読などのアナウンスの仕事も、発達心理学や障がい福祉分野の活動も、コミュニケーションが共通のキーワード。「声は人なり」をモットーに。※写真提供/中日新聞社

名古屋大学大学院環境学研究科
都市環境学専攻 研究員
剣持 千歩さん (1995年卒業)

【主な活動】
「あなたの選択が地球をgreenにする」を合言葉に、自分たちの手で社会を変えようという取組 green project を2008年より実践しています。(green project 事務局プロジェクトマネジャー)

主体性をもって
住民とともに
実践的に学ぶ。



岐阜大学
教育学部生涯教育課程
田中 未恭さん (4年生)

【主な活動】
「生涯教育システム研究セミナー」というゼミで学んでいます。ゼミでは、それぞれが興味のあるテーマに沿って研究を進めており、私は「まちづくりと生涯学習」をテーマとして取り上げ研究をしています。また、岐阜県で行われている「地域づくり型生涯学習」モデル事業にも参加し、実践的な学びも進めています。

落語披露の場は
地域住民の憩いの
場としても。



岐阜大学落語研究会
岩田 典子さん (3年生)

【主な活動】
地域の方々を対象として落語や漫才の自主公演や他大学との合同公演を行っています。また、老人クラブや介護施設、婦人会、公民館などから依頼を受け、出張寄席も行っています。

公私ともに
「まちづくり」に
奔走中です。



郡上市役所市長公室企画課
地域振興担当
松原 恵美さん (2004年修了)

【主な活動】
公務として、人材育成のための郡上講座、交流・移住推進事業、CATV情報番組等を担当。プライベートで大乗寺朝顔市等の歴史文化を生かす活動に関わっています。

そこに住むひと
自らの手で変える
ことが大切。



【特集2】

「学び」のチカラ。

大学で身に付けた高度な専門知識と技能。

それを実社会で発揮するために

欠かせないチカラとは？

大学がそのチカラを育む意義とは？

大学・地域・社会をつなぐ「学び」のチカラについて、

岡野幸雄副学長（教学担当）と

福士秀人教授（教養教育推進センター長）に伺いました。



理事（教学・附属学校担当）・副学長

岡野 幸雄

専門分野は生化学・分子生物学。がん研究をテーマに、がん遺伝子オーロラをヒトからクローニングし、DNA修復タンパク質分解を介した細胞増殖の分子機構を解析。昨年3月まで医学系研究科・分子病体学分野教授

教養教育推進センター長

福士 秀人

専門分野はウイルス学・偏性細胞内寄生体学。感染症研究をテーマに、新しいウイルスを病気で死亡したトムソングゼルという動物から発見。ウイルスやクラミジアがどのように病気を起こすかを分子レベルから個体レベルで解明中。現在、応用生物科学部獣医微生物学研究室教授。

2012年度より、岐阜大学では5学部のうち3学部において、教養教育の単位数を増やす予定です。

例えば、人文科学系科目では習得すべき最低科目数を増やし、医学部は1科目が2科目に、教育学部と工学部は2科目が3科目になります。

その背景にあるのは、「広い視野を持ち、大学の専門性を社会へと還元できる人材を育成したい」という思い。

卒業後の先を見据えながら、学生が自立的に学び、活動できる教育環境づくりを着実に進めています。

学部の垣根を越えて開設した「キャリア形成科目」。

——キャリアセンターと連携で科目立案にあたったという「キャリア形成科目」についてお聞かせください。

福士 「キャリア形成科目」は、2010年度後学期に教養科目の一つとして開設されました。卒業生をはじめ多種多様な企業のトップや最前線で活躍されている方を講師に招き講義を行っています。受講した学生たちは先輩の活躍をじかに聞き、自分の将来像を考えるきっかけになっています。また、講師の方たちからも「自分にとっての大学を見直したい機会になった」「私が学生の時にこういう授業があったら進路が変わっていたかも」といった感想をいただくなど、学問的な面だけでなく人生観や職業観を考える機会になっていると手応えを感じています。

岡野 卒業3年間の離職率が30%と言われている今、人生観や職業観への認識を学生たち

に植えつけることは大学の使命の一つとなっています。大学で身に付けるべき教養を定義することは難しいですが、学生の皆さんには人文・社会・自然など広い視野を持つて欲しいと思います。

福士 幅広い教養を身に付けていると物事を多面的に見ることができ、人生がより豊かに楽しくなります。また「キャリア形成科目」は学部の枠を越えて開講しているため専門外の講義を聴くことができ、自分の立ち位置やなりたい職業が見えてくるという効果もあると思います。

「自立と責任」を自覚めさせる学内インターンシップ。

——その他、講義以外でのサポート体制についてはいかがですか？

福士 大学では、講義以外にも学生のキャリア形成をサポートする取り組みを行なっています。その一例が「学生相談員」

です。新入生ガイダンスにおいて、在学生が「学生相談員」としてスタッフに加わったことが始まりでした。ガイダンス終了後も、学生向けのシラバス（履修案内）を学生目線で作るなど自立的に活動を継続しています。中には「学生相談員」

を機に大学の事務職に興味を持ち、卒業後採用試験に合格し、実際に岐阜大学に就職した学生もいました。大学内にもインターンシップの機会があるのだという新しい発見がありましたね。

岡野 今後は、大学の広報活動やIT面などでも学生に参加してもらい、大学で培った能力やスキルを発揮できる場を増やせたらと思っています。そして、これを機会に「学生は大学の一員だ」ということを学生も大学側も改めて認識してもらえたらいいですね。

福士 新入生ガイダンスのスタッフには、アルバイト代を支払いました。タダで働くことは違い、お金を貰うからにはそれに値することをしなければ

ならない。つまり「自立と責任」。これを学んで欲しいと思ったからです。最終的には、学生が企画から運営まで全てできるようになるといいですね。

大学の専門性を広く社会へ還元するために。

——学生に、ぜひ身につけてほしい「学び」のチカラはなんですか。

岡野 2009年、岐阜大学は経済産業省「社会人基礎力育成・評価プログラム」に採択され、2010年度からは「基盤的能力と専門的能力を自立的に学習する教育」を推進しています。この基盤的能力とは、「考える力」「伝える力」「進める力」のことです。教養教育や専門教育、あるいは課外活動の中で基盤的能力を培い、専門的能力も専門教育や教養教育の中で育むことになります。在学中に培った基盤的能力と専門的能力を総合した力は、社会人になった時にも

必ず役立つチカラです。ぜひ身に付けておいて欲しいですね。福士 卒業して社会に出れば、専門家として一般の方と話す機会も出てきます。たとえば私の場合、鳥インフルエンザや口蹄疫などについて説明する時もあるのですが、専門家相手だったら一言で済むことも一般の方には理解していただけないことがあります。本当の専門家は専門外の方に容易に理解していただけるよう、噛み砕いてわかりやすく説明できないといけない。こういう時に役立つのが幅広い教養なんですね。

大学での4年間は、一生の中でほんのわずかな時間です。大切なのは、大学卒業後の長い人生をどう過ごすか、どう学んでいくかを考えるキッカケを見つけること。そのキッカケとなる「学びへの気づきの場」を提供し、豊かな教養を身に付けた真のプロフェッショナルを社会へ輩出する。「学び」のチカラを社会に還元することも私たちの大切なミッションだと思っています。

「学び」のチカラ。

全学共通教育科目(教養教育)講師と受講生に聞きました!

広報・PR論入門における「学び」とは、コミュニケーションである。

岐大発。

「学び」とは

〇〇である。

「学び」とは〇〇である。
大学で身につけるべき教養はなにか。大学における「学び」とはなにか。個々の人生が多様であるように、そこに究極の答えはないのだから。それならば、各々違ったフィールドで活動する人達に同じ質問を投げかけてみよう。さまざまな人の考え方を聞くことができれば「学び」が今よりもっと魅力的に見えるかもしれない。
あなたのフィールドにおいて、「学び」とはなんですか。



岐阜大学地域科学部准教授 野原 仁

この講義の第1の特徴は、1グループ6名の学生によるグループワークです。つまり、それぞれのグループが、本学の広報に関わるテーマを自分たちで設定し、そのテーマに基づいて、実際に作業を行うのです。具体的には、あるグループはオンラインキャンペーンの際に高校生に配布するために、柳戸キャンパスのマップを制作し、また別のグループは、本学のブランド価値を高めるための広報素材を探しました。このグループワークでは、当然ですが、学生同士がきちんとコミュニケーションを図らないと、作業は何も進みません。そのため、先述したテーマの設定だけでなく、具体的な企画内容・作業スケジュール・役割分担などのさまざまな点について、学生たちは真剣に議論を重ね、そして決定事項に従って、協力して作業を行いま

した。さらには、各グループによるプレゼンテーションも2回実施しましたが、その内容や方法についても、学生たちに議論・決定してもらいました。その際に、「プレゼンテーションとは、一方的に情報を伝達するのではなく、聞き手に自分たちの意図する内容をよりわかりやすく理解してもらうことが重要であり、コミュニケーションのひとつのかたちである」ことをアドバイスし、学生たちもこのことをしっかりと理解して、プレゼンテーションを行ってくれたと思います(その意味では、グループワーク以外の通常の講義も、講師である私たちが一方的に教えるのではなく、学生たちの表情や態度を見ながら進める、という意味では、常に講師と学生とはコミュニケーションをとっていたと言えます)。

第2の特徴は、「自己評価シート」を用いて、毎回の講義で「具体的に、どのような知識や能力を、どの程度身につけることができたのか」を、各学生に自分自身で評価してもらうことです。コミュニケーション論では、複数の人間によるコミュニケーションだけでなく、このように自分自身を省みることを「イントラ・パーソナル・コミュニケーション」と呼び、コミュニケーションの「形態」として扱っています。したがって、この自己評価も「自分自身との対話(＝コミュニケーション)」なのです。以上のように、この講義での「学び」とは、他者および自己とのコミュニケーションであり、さらには、このコミュニケーションを通して、「主体的に」学ぶことの重要性を認識することだと言えるでしょう。



「広報・PR論入門」とは...

全学共通教育科目(教養教育)である「広報・PR論入門」では、広報・PRおよびブランドに関する基礎理論を学ぶとともに、企業や自治体の広報担当者を講師に招き、現代社会におけるブランド力向上のための実践例をもとに、より深い知識を身につけるための講義です。岐阜大学をモデルとして、具体的な実践方法の立案を行うほか、グループディスカッションによるワークスタイルを通じ、企画力・プレゼンテーション力・コミュニケーション力・行動力を養うことができる内容となっています。

広報・PR論入門における「学び」とは、「伝える力」である。

地域科学部 4年生 田中 友梨 さん 地域科学部 4年生 鯨岡 真由 さん

就職活動では、自己PRやプレゼンテーションなど、よく「伝える力」を試されますが、私たち学生はこの「伝える力」の根本を見つめる機会に恵まれていると言えるでしょうか。答えは「ノー」です。通常の講義は、教授が情報を発信し、学生がその情報を受け取るような一方的なやり取りが目立ちます。しかし、本講義では広報の基礎知識の聴講はもちろん、現職で広報に携わっている方の講話を聴く機会があり、また、「学生が自ら計画を立て、情報を収集し、聴講で学んだことをベースに、プレゼンテーションを行う実践」が盛り込まれています。ただ、事実をまとめ、そのまま発信するのではなく、情報の受け手のニーズを考慮することで、より有益な情報を発信する術を身につけました。「伝える力」とは、自らの視点だけでなく、受け手の視点を併せ持つて初めて達成されるものだと学びました。

広報・PR論入門における「学び」とは、失敗からも得られるものである。

工学部応用情報学科 1年生 田尻 裕貴 さん 地域科学部 1年生 篠原 亜梨朱 さん 地域科学部 1年生 天野 弘恵 さん



岐阜大学をいろんな方々に知っていただくために、岐阜大学の魅力のひとつとして大学の地下水を見つけ出し、その地下水の魅力をどうやったら相手に伝えることができるか自分たちで考え、実践していきました。いざ調査を始めてみると、大学では高校までとは違い、課題その調査方法まですべて自分たちで考え、実行しなければならなく、大学の地下水をほかの水との差別化を図るためにはどういったアプローチを取ればいいのか、まずはそこからでした。思うような結果は得られませんでした。失敗があるからこそ何がいけなかったのか原因を突き止めることができ、次に繋げていくことが出来るということ、また、結果ではなくその過程が重要であると実感しました。

部・サークルで活動する学生に聞きました！

インターンシップ経験者に聞きました！

剣道における「学び」とは、
人間形成である。



教育学部保健体育講座 3年生
野々村 崇 さん

「剣道の理念」において「剣道は剣の理法の修練における人間形成の道である」と示されています。
私はこれまでの厳しい稽古を乗り越えて行く中で肉体的、技能的に成長すると共に、試合などでは単に勝った、敗けたという勝敗だけではなく、相手を思いやる気持ちや礼儀作法を大切にすると言った人格的にも成長することができました。
剣道の上達はこの身体育成と人格の形成の両面が鍛わってはじめて上達できるものであると思います。またこの両面から人間形成できるものでもありません。
私のこれからの剣道人生ではよりこれらのことを鍛え続け日々人間形成の道を歩んでいきたいと思っています。



インターンシップにおける「学び」とは、
体感する社会人の自覚である。



教育学部理科教育講座物理学専攻 2年生
伊藤 宏紀 さん

今回、私のインターンシップを引き受けて頂いた江南工機さんは、機械の組み立て、研磨、修理といったことを中心に行う機器器具の製造工場です。私は一週間の短い体験期間の中で、社会人として働く、変えられること、仕事観を大きく職員の方々の働く姿を見て一番感じたことは、仕事に対するプロ意識。体験初日、工場の方にこんな話を頂きました。「私たちが作った製品は商品になりお客様の手が届く。その過程の中には必ずお互い信頼関係が伴います。ここに頼めば大丈夫だと言われるものを作れるかです。」職員の皆さんの姿にはこの言葉通りの意識が感じられ、職場内には常に緊張感がありました。私の今までの生活では成功もミスも全てが自分に還元されてきました。しかし、社会人はそうはいかない。自分のミスは会社、お客様が受けることになる。リアルな現場を感じることで初めてこの感覚はわかると思います。インターンシップはプロのプライドと責任を肌で感じられる機会と言えるでしょう。

ロボコンサークルにおける「学び」とは、
経験によって裏付けされるモノである。



工学部電気電子工学科 3年生
清水 直哉 さん



大学での講義での学びとサークルで学ぶことは何が違うのだろうか？
そう考えた時に、一番の違いは実際にやって、試してみる事ではないだろうか。講義で学んだことや日々考えている事を実際に試すことが出来る場所がロボコンサークルだと考えている。
ロボコンは自分たちで作ったロボットが競技をする。ロボットはメンバーの努力の結晶である。しかし、そこに至るまでは数々の、様々な問題が起こる。それをアイデアを出し合い、日々学んだ事を駆使し解決する。決してそれらの問題は簡単に解決できるようなものではなく、常に正解があるとは限らない。そこでベストを尽くす事こそが「経験」であり、今までに学んできたことを「経験」によって裏付けることができる。これがロボコンサークルにとっての学びではないだろうか。

インターンシップにおける「学び」とは、
新しい世界を知ることである。



応用生物科学部獣医学課程 5年生
安田 昇平 さん

私は将来、「町の獣医さんになり、犬・猫の診療に携わりたい」と思っています。しかし、インターンシップの場としたのは、犬・猫の病院ではなく、動物園でした。これは、将来見ることのできない動物園の世界をあえて見てみようと思ったからです。インターンシップを通じて、動物園動物ならではの診療の難しさ、動物の飼育や管理の難しさ、国内における動物園の立ち位置、動物園が行っている啓発活動など、今まで自分が知らなかった多くのことを学ぶことができました。したがって学びとは、新しいことを経験し、それを自らの力とし、自分を高めるための行為だと考えます。



新「岐大のいぶき」アンケート報告！



前号
岐大のいぶき
No.21

前号 No.21 でリニューアルした「岐大のいぶき」に、たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。アンケートの結果をお知らせします！

	No.20 (131名)	No.21 (108名)
□広報誌のデザイン [良 い]	46.6%	→ 66.7%
□広報誌の読みやすさ [読 み や す い]	42.7%	→ 56.5%
□広報誌の情報量 [ち ょ う ど 良 い]	74.8%	→ 74.1%
□岐大の様子 [よ く わ か る]	30.5%	→ 22.2%

「緊急医療の新潮流」には、とても多くの方に興味を持っていただきました。ご意見の一部を紹介させていただきます。「研修医対談にひきこまれました。3人の輝く目がステキです。」「救急医療をはじめとして、職業プログラムの充実が印象的な岐大だ。」とても嬉しいご意見、ありがとうございました。

また、リニューアル後のデザイン、読みやすさが向上し、スタッフ一同、とても喜んでおります。

一方で、「岐大の様子」をお伝えする内容には、まだまだ改善の余地あり、との結果でした。ご意見として「いろいろな学部の様子わかる身近なニュースを取り上げては?」「各学部の特徴や学生の様子など、学生の保護者として何を子どもが学んでいるのを知りたいです。」な

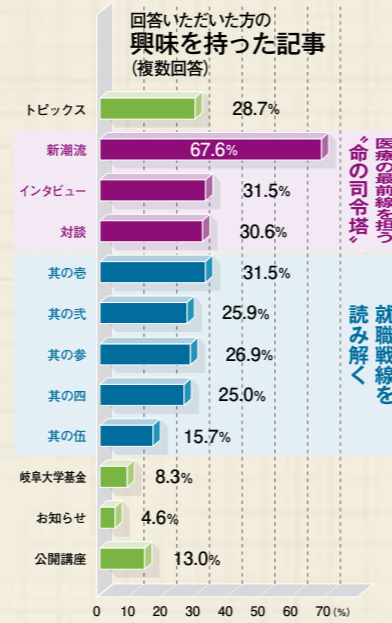
どをいただきました。

今号 No.22 では、冒頭の Topics のコンテンツを充実させるとともに、本学の特色の一つである、地域での教育・研究活動のひろがりの特集としましたが、いかがでしたでしょうか。また、「字が小さいので、読みにくかった」とのご意見も受け、字体をやや大きくしてあります。

「岐阜大学のことをもって日本中に発信してほしいです。とても良い大学だと思うので、なんでもよいので外に出て、皆が入学したいと思う大学にしていってほしいです。」

はい!! 広報スタッフ一同、ますます頑張ります!!

「岐大のいぶき」は、読者の皆様とともに作っていく広報誌を目指しています。皆様からのご意見をお待ちしております。



医療の最前線を追う
就職線を探る

岐大の旬を知るサイト“G project!”オープン!



GプロジェクトのG、岐阜大学のこと。

そして、地域社会に愛される大学の活動…魅力的(Glamorous)な活動、すばらしい(Great)活動、榮譽ある(Glory)活動が、全国へ世界へとつながるGlocalのこと。

Gプロジェクトは、岐阜大学の学生、教職員はもちろん、保護者の皆さん、卒業生、企業、地域の皆さんなどのGサポーターとともに育てていくムーブメントです。

このたび、Gプロジェクトを社会へ発信する広報ツールとして、岐大の旬を知るサイト“G project!”を立ち上げました。

このサイトでは、本学の教育活動、研究活動、学生活動など「学び、究め、貢献する」活動を分かりやすく、楽しく発信していきます。

ぜひ、岐阜大学の魅力を発信する“G project!”サイトをのぞいてみてください。



<http://gproject.gifu-u.ac.jp/>

あなたの知らなかった岐阜大学が発見できるかも? 携帯サイトも同時公開しています! 皆様からのご感想をお待ちしております。



岐卓大学の 基金の 状況報告

基金創設の趣旨

本学が、更なる飛躍発展を遂げ、地域社会からの信頼と期待に応え、地域社会に貢献できる大学としての責任を果たすためには、流動的・機動的資金の運用が可能である基金が必要であることから、平成21年6月に創立60周年記念を契機として「岐阜大学基金」を創設いたしました。

この基金は、多くの皆様のご協力により、学生に対する奨学金や国際交流事業、特色ある研究活動への支援、地域社会への貢献事業、キャンパス整備など継続的な教育研究活動に活用することとしております。

基金による事業展開

- 学生支援事業 (深い専門知識、広い視野と総合的な判断力を備えた人材育成のための支援)
 - 優秀な学生への奨学金制度
 - 学生の海外留学や交換留学生への支援
 - 外国人留学生への奨学金の充実 等
- 教育研究活動支援事業 (独創的・先進的な研究を行い、成果を絶えず社会に発信するための支援)
 - 将来性が見込める優れた研究者に対する研究への支援
 - 教育研究機器の整備
 - 研究者の国際的な研究活動への支援
 - 海外の協定大学との教育研究交流への支援 等
- 地域貢献活動支援事業 (地域社会・国際社会からの信頼と期待に応えるための支援)
 - 地域企業との連携や協力事業への支援
 - 多様な生涯学習機会への支援 等
- キャンパス環境整備事業
 - 講堂、体育館、武道館、グラウンドの整備 等

平成23年度支援事業等

岐阜大学基金の創設以来、多くの皆様からご寄附をいただき、ありがとうございます。貴重なご寄附を有効活用するため、次の支援事業を展開しております。

- 学生支援事業
 - 応援奨学生
 - 岐阜大学流域水環境リーダー育成拠点形成事業に関する私費外国人留学生学習奨学金
- 特定事業 (寄附者が指定する事業)
 - 国際交流促進のための奨学寄附金
 - ドリームプロジェクト (コンティグ・アイ)
 - 岐阜大学事業奨励奨学寄附金
 - 外国人留学生支援事業

寄附者芳名録

卒業生をはじめ多くの皆様から岐阜大学基金へご協力いただき、心よりお礼申し上げます。ここに、ご芳名を掲載させていただきます。

今号では、平成23年3月から9月末までに寄附いただいた方で、掲載をご了承いただいた方を五十音順にご紹介いたします。なお、本学役職員につきましては割愛とさせていただきます。また、10月以降に寄附をいただきました方については、次号にて掲載させていただきます。

今後とも、岐阜大学基金の支援事業等を発展するためにより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

個人

渥美 友啓 様	伊吹 治郎 様	長田 仁郎 様	畔柳 東一 様	武山 茂康 様	生川 祐一 様	間瀬 和久 様	安田 庄一 様
安部 則男 様	今尾 勝治 様	恩田 武文 様	小島 森 様	田中 浩 様	能勢 宏 様	松田 五男 様	山口 政男 様
飯田 政敏 様	岩田 元 様	螺澤 利昭 様	小島 哲朗 様	谷 勉 様	野田 哲蔵 様	松林 達朗 様	山下 康爾 様
石田 亨 様	岩田 恵司 様	掛樋 豊 様	小塚 忠 様	玉城 信一 様	林 正一 様	松本 俊明 様	山田 政行 様
石田 博昭 様	上野 信義 様	加藤 賢龍 様	後藤 信義 様	築山 茂 様	林 美和子 様	松本 光生 様	山中 道都 様
伊勢村 道雄 様	牛丸 裕司 様	亀山 要平 様	近藤 拓治 様	富田 とよ子 様	坂 秀己 様	三國 喜四郎 様	山本 茂 様
井谷 逸郎 様	白井 憲義 様	川村 喬二 様	近藤 康夫 様	豊嶋 隆明 様	阪野 二郎 様	水野 芳晴 様	横井 真教 様
市村 みゆき 様	江崎 攝 様	北川 成子 様	阪上 丈一 様	長塩 惠三 様	久永 真二 様	峯浦 良哉 様	吉田 和光 様
井戸 忠美 様	種田 稔一 様	木村 信幸 様	櫻井 滋也 様	長野 朔夫 様	廣瀬 英雄 様	宮田 英雄 様	芳山 健一郎 様
井戸 信裕 様	大濱 啓子 様	國枝 孝典 様	澤上 藤彦 様	中原 昭夫 様	細川 勝由 様	宮村 迪子 様	若原 和男 様
伊藤 融 様	岡田 泰幸 様	久米 敏博 様	杉浦 健次 様	中村 陽一 様	前川 忠敏 様	村岡 直泰 様	和田 禮三 様
井上 明彦 様	小椋 弘樹 様	黒田 広子 様	高木 正巳 様	夏目 孝男 様	増谷 愛子 様	銘苅 敏夫 様	渡辺 四朗 様

法人・団体等

(株)エヌテック 様	(財)井上国際交流基金 様	旧 繊維工学科教職員 様	東栄電業(株) 様
(株)クリエイティブエージェンシー 様	(有)郁文堂書店 様	サンメッセ(株) 様	東邦ガス(株) 北部支社 様
(株)十六銀行 様	イビデン(株) 様	西濃華陽観光バス(株) 様	特定非営利活動法人 エコ・テクル岐阜 様
(株)スギヤマメカレトロ 様	岐阜信用金庫 様	太平洋工業(株) 様	有機材料教育研究会 様



平成24年度入試の変更点

【センター試験について】

- 全学部・学科 ●平成24年度センター試験の教科・科目（地理歴史・公民）の利用方法
工学部 ●平成24年度センター試験の受験を要する理科学科の変更

【個別入試について】

- 教育学部 ●推薦入学Ⅰ（センター試験を課さない推薦入試）の廃止：学校教育講座
●推薦入学Ⅱ（センター試験を課す推薦入試）の廃止：理科教育講座（化学・生物学・地学）
●募集人員の変更：保健体育講座
医学部医学科 ●後期日程試験において、2段階選抜を実施
工学部 ●推薦入学Ⅱ（センター試験を課す推薦入試）の募集人員の変更
応用生物科学部 ●推薦入学Ⅰ（センター試験を課さない推薦入試）の出願要件の拡大

平成24年度学生募集人員

学部	課程・学科	入学定員	一般入試		特別入試			
			前期日程	後期日程	推薦入学Ⅰ	推薦入学Ⅱ	社会人	帰国子女
教育学部	学校教育教員養成課程	230	149	63		18		
	特別支援学校教員養成課程	20	15	5				
	計	250	164	68		18		
地域科学部	地域政策学科	(50)	60	21	6	10	2	1
	地域文化学科	(50)						
	計※	100	60	21	6	10	2	1
医学部	医学科	107	32	35		40		
	看護学科	80	47	20	10		3	
	計	187	79	55	10	40	3	
工学部	社会基盤工学科	60	33	15		12		
	機械システム工学科	65	38	17		10		
	応用化学科	55	32	13		10		
	電気電子工学科	60	35	15		10		
	生命工学科	60	35	15		10		
	応用情報学科	70	40	17		13		
	機能材料工学科	55	32	13		10		
	人間情報システム工学科	50	30	12		8		
	数理デザイン工学科	35	22	9		4		
	計	510	297	126		87		
応用生物科学部	応用生命科学課程	80	54	10	6	10		
	生産環境科学課程	80	50	10	10	10		
	獣医学課程	25	21			4		
	計	185	125	20	16	24		
合計		1,232	725	290	32	179	5	1

※地域科学部の入試は、学科の区別をせず、学部単位で行います。

詳細については、「入学者選抜に関する要項」「学生募集要項」等で確認してください。

大学入試センター試験 平成24年1月14日(土)、15日(日)

前期日程試験 平成24年2月25日(土) [教育学部実技検査 26日(日)]

後期日程試験 平成24年3月12日(月)

「岐大のいぶき」について

「いぶき」は、滋賀・岐阜県境にある伊吹（いぶき）山と生気・活気を意味する息吹をかけて名付けられました。岐阜大学のある濃尾平野には、「伊吹おろし」と呼ばれる強い季節風が吹き込みます。これになぞらえ、本誌には、岐阜大学の活力（いぶき）を地域から世界へ感じさせたいという願いが込められています。

岐大のいぶきはWebからもご覧いただけます！

<http://www.gifu-u.ac.jp/>

■「岐大のいぶき」についてのご意見ご感想をお待ちしております。

送付先 / 岐阜大学経営企画部経営企画課広報室 〒501-1193 岐阜市柳川1番1

TEL 058-293-2009 FAX 058-293-3294 Email kohositu@gifu-u.ac.jp

